



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 7 附2

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 7 附2. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1953, 7(附2)

ISSUE DATE:

1953-04-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186876>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会
水族館月報

No 7 附2

1953.3月(4月1日)

資 料

◎1952年度 決算

1) 収入 入場料 2,143,523.00
雑収入 12,909.00
計 2,156,432.00

支出 2,125,493.00
四月分に繰越 30,939.00
計 2,156,432.00

差 引

- 2) 借入金 224,686.00 の借入金は全額返済した。
3) 横立金より引出して使用した額は51,710.00でありす。

◎1952年度 有料入場者数、入場料月別表

月	入場者数	入場料	晴天日数	平均気温
9	13,026	219,537.	—	—
10	26,604	445,596.	22	20.7
11	18,143	332,100.	17	17.3
12	5,243	100,138.	24	11.9
1	13,166	253,170.	23	8.9
2	13,070	247,469.	19	9.4
3	30,748	545,013.	20	12.8
總計	120,000.	2,143,523.	—	—

◎ 1952年度 概略予算

番所山熱帯植物園に対する契約金	50万円
人件費(賞与, 退取資金, ベースアップ資金を含めて)	72万円
枝料費(魚類及び餌料)	36万円
光熱費(電力代等)	10万円
修理費	20万円
消耗品費	5万円
実験所欧文研究報告印刷費(200頁, 300部)	40万円
水族館設備の改善	20万円
実験所設備の改善	30万円
雑費(旅費等を含めて)	5万円
會議費(委員会)	5万円
保険料, 設備借料	5万円
予備費	2万円

計 300万円

◎ 1952年度 経理実績

費目別	1952年度 予算の7/10を示す	1952年度 実績	過不足
契約金	292,000.	355,793.	- 63,793.
人件費(3)	420,000.	329,434.	+ 90,566.
枝料費	210,000.	103,737.	+ 106,263.
光熱費	59,000.	48,331.	+ 10,669.
修理費	117,000.	130,437. ⁵⁰	- 13,437. ⁵⁰
消耗品費	29,000.	32,917.	- 3,917.
実験所欧文研究 報告印刷費	233,000.	240,000.	- 7,000.

水族館設備の改善	112,000	291,601	- 174,601
実験所設備の改善 (特別費)	175,000	247,592	- 72,592
雑 費	29,000	2,475	+ 26,525
旅 費		18,840	- 18,840
會 議 費	29,000	⁽¹⁾ 30,000	- 1,000
諸税公課		65,695	- 65,695
保険料設備借料	29,000	⁽²⁾ 50,150	- 21,150
備 品 費(6)		65,470	- 65,470
通信運搬費		1,085	- 1,085
厚生費		8,200	- 8,200
積立金		⁽⁴⁾ 97,410	- 56,450
災害時予備積立金		⁽⁵⁾ 58,035.50	- 47,285.50
予 備 費	11,000		+ 11,000
合 計	1,750,000	⁽⁷⁾ 2,125,493	⁽⁷⁾ - 375,493

1 積立金としてある。

2 25,000.00 は 積立金としてある。

3 退取、ベースアップ、賞与積立金を含む。

4 引出して使用した金額は 40,960.00

5 12月末に引出し使用、後返済した額 10,750.00 だけ多くなっている。

6 1952年度予算では水族館、実験所の設備改善費中に含まれていた。

7 (4+5) の金額を総額より差引く。

◎ 積立金現在高

會議費	30,000,
設備借料	25,000,
退取積立金	6,300
ベースアップ資金	24,000
賞与積立金	24,000
厚生積立金	2,150
災害時予備金	30,785,50

計	142,235,50
災害時予備金より貸出	16,500,

計 158,735,50

(50銭はこの際切り捨てさせていただきます。)

◎ 1952年度 校料費の消長

9月	34,036,
10月	8,774,
11月	14,740,
12月	9,295,
1月	11,447,
2月	12,900,
3月	12,545,

◎ 1952年度 購入備品の主要なるもの

自転車 2台

漁具

◎ 1952年度 修理主要箇所

柵

厩

水槽蓋

ベランダ

海水タンク

(左官工事)

◎ 1952年度水族館設備の改善

電話設備

ヤンマーディーゼル

鯨骨組立

◎ 1952年度実験所特別費

顕微鏡、文献複写用セット

創立30周年記念式経費

数取器

◎ 1951年度と比較してみても、どの位の改善がなされたか。

大体5,000円位の修理費も当方への契約金から差引かれた実情に照らしてみると、修理費の大部分を含めて7ヶ月間に約100万円が実験所及び水族館のために使用された事となる。

修理費	120,000.
印刷費	240,000.
水族館設備	290,000.
実験所特別費	247,000.
備品費	65,000.

計 962,000.

◎ 1953年度 予算案

1952年度予算と実績の比較を根拠として案を立ててみました。

予想入場人数 ----- 20万人

入場者1人当り平均入場料 ----- 15円

1年間(4月1日～3月31日)入場料予想高 ---- 300万円

自然増加もあるかも知れないが、番所山植物園を離れたためにある程度の入場者減も考え得る。こゝには安全な数字として上記を考えた。

支 出 案 決 定

契約金(1.5月分)-----100,000.

人件費-----980,000.

実績に積立金を加えると1952年度の
予算は大して多くはない。他に博物館
の番人、園丁を入れ研究費を出す
として見積る。

備品費-----50,000.

材料費-----170,000.

光熱費-----100,000.

修理費-----100,000.

消耗品費-----50,000.

通信運搬費(電話料が増した)15,000.

印刷費-----400,000.

水族館設備改善-----200,000.

実験所特別費-----300,000.

雑 費-----10,000.

旅 費-----20,000.

厚生費-----15,000.

會議費-----40,000.

諸税公課-----80,000.

災害時予備積立金-----30,000.

予備費-----20,000.

番所山に代る設備費-----320,000.

人件費 2名分 180,000.を加えて500,000とする。

計 300,000,000.

◎ 1952年度 気象記録

	気 温	水 温
10月上旬	22.5	23.7
中旬	20.5	22.5
下旬	19.0	21.6
11月上旬	18.0	21.1
中旬	16.8	20.5
下旬	17.0	20.5
12月上旬	12.5	18.1
中旬	12.9	17.1
下旬	12.4	15.7
1月上旬	7.6	15.0
中旬	8.5	13.7
下旬	8.7	13.5
2月上旬	7.4	12.4
中旬	10.4	14.1
下旬	10.5	13.8
3月上旬	12.6	14.3
中旬	13.0	14.5
下旬	12.7	15.0



田中隆